〔東雅十三穀蔬〕蒲公草フヂナ　倭名鈔に本草を引て、蒲公草一名耨耨草、フヂナ、一にタナといふと註せり、並に義不詳、今俗にタンポヽといふもの、蒲公草卽是也、此菜田園隴畝ノ間に生じぬるものなれば、タナと云ひしにや、ソチナの義詳ならず、或人の説に、此菜一名を白鼓丁ともいへば、タンポヽの名あり、タンポヽとは、鼓聲をまなびいふなりといふ、如何にやあるべき、タンポヽは、此と彼とにして、呼ぶ所を合せ云ふに似たり、タンポヽとはタナの轉語也、ポヽとは此物一名また孛々丁といふなり、

〔倭訓栞中編二十二〕ふちな　和名抄に蒲公英を訓せり、藤菜の義なるべし、花の時をいふにや、たんぽゝ也、

〔倭訓栞後編十一多〕たんぽゝ　蒲公英をいへり、たなほゝの義にや、たなは本名、ほゝは實のほゝけるをいふなるべし、一名白鼓丁ともいふ、よてつゞみ艸と呼り、又藤菜とも稱す、黃白二種あるなり、くだざきたんぽゝといふ、出羽にてくしなどいへり、

〔本朝食鑑三柔滑〕多牟保保草

釋名　俗稱藤菜草、或稱鼓草、倶名義不詳、

集解　野徑庭園多有、春初生苗布地四散、葉略似蘿蔔而小、葉端三尖如鉾頭、而次第深刻、二三月之際、一葉聳上三四寸、斷之有白汁、上開黃花、如野菊、後黃落成絮、莖葉花絮大抵似千葉苣、絮中有子、落處卽生、或有淡紫色者、稍希、無花者亦有之、其嫩苗作蔬、患瘡毒之人嗜食之爾、

〔重修本草綱目啓蒙十九柔滑〕蒲公英　フヂナ和名鈔　タナ同上、古名、　タンポポ　クチナ信州　ムヂナ勢州　グチナ奥州　グチグチナ佐渡　ゴヤジ同上　ツヾミグサ越中略中○

原野路旁ニ甚多シ、然レドモ、紀州熊野ニハ自生ナシ、廣東新語ニモ嶺南ニハ生ゼザルコトヲ云リ、葉ハ冬ヨリ盛ニ生ジ、地ニ就テ叢生ス、形苦葉ノ葉ニ似テ小ク、薺葉ニ似テ大ナリ、切レバ白汁ヲ出ス、春時煮食フ、二三月圓莖ヲ出ス、肥タル者ハ數十莖、瘠タル者ハ數莖、高サ五寸許、內空シ、頂ニ一花ヲ開ク、單葉菊花ノ如ク、黃色後白絮ヲナシ、風ニ隨テ飛ブ、根ハ冬ヲ經テ枯ズ、一種筒瓣ノ